

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ

きっと「全部」良い経験に  
～悩んだ末、決意した派遣を終えて～



新潟市観光・国際交流部国際課 阿部 耕也

クレア派遣の打診があったのは、結婚という人生最大のイベントを目前にしたタイミングでした。仕事の都合で帯同できず、結婚とは真逆の遠距離生活になること、自分が派遣職員としての役割を果たせるのかという不安もあり悩みましたが、元々国際業務に関心があり、行かなければ一生後悔するに違いないという自分の直感を信じ、クレアへの派遣を決意しました。

## 1人、姉妹都市に飛び込んで

東京本部では海外事務所と本部の定例会議や事業改善委員会の運営、機関紙の発行など、クレアの企画運営業務に携わった一方、パリ事務所では地方自治体の伝統工芸品のテストマーケティング事業、フランスの自治体を対象とした見本市への出展、日仏自治体交流会議といった対外的な業務を多く経験しました。本部と海外事務所での業務は異なるものでしたが、本部でクレアという組織全体の役割に目を向けていたからこそ、パリ事務所の1つ1つの事業に、広い視野を持って取り組むことができたと思います。

派遣中、特に印象に残っている業務は、1人で新潟市の姉妹都市であるナント市に行き、施策を学んだミニスタージュ（滞在型研修）です。本市からパリ事務所への派遣は私が初めてということもあり、訪問にあたっては、ナント市にとっても有意義な時間にならなければならないという責任を強く感じていました。ホームページなどで事前に施策を調べるだけでなく、休日には現地のイベントへ何度も足を運び、フランス語での新潟市やクレアの事業説明に備えて連日夜遅くまで準備に明け暮れていました。出発を控えたある日、肩の力が入りすぎていた私に、当時の次長が一言「きっと全部良い経験になるよ」と声をかけてくれたことをよく覚えています。その言葉で肩の荷が少し軽くなり、前向きな気持ちでナント市に行くことができました。

滞在中、ナント市の文化政策や観光政策について学ぶとともに、ナント市関係者からは、移動や食事の時間などのあらゆるタイミングで「日本ではこの制度はどうか」「新潟市ではどうしてるのか」「フランスと日本の違いをどう感じるか」とさまざまな質問を受けました。準備の甲斐もあって幅広いジャンルについて積極的に意見交換を行うことができ、それまで尋ねる機会がなかった細かい質問も数多く答えていただ

くことができました。滞在を通して、我々職員同士が互いを理解し合うことが、両市の姉妹都市交流のさらなる発展につながると強く感じました。

## 帰任後、新潟市国際課職員として

帰国後無事に入籍も果たし、新潟市国際課の職員として新たなスタートを切っています。9月にナント市のダンスユニット「The Rookies」を受け入れ実施した青少年交流事業では、クレア派遣を経て、ようやく新潟市の担当という立場で姉妹都市交流に携われることに大きな喜びを感じました。

そのほか11月にナント市の職員団体が新潟市を来訪した際には、ナント市から私に対し、ナント市で私が経験したミニスタージュのような形で受け入れてもらえないかとの依頼があり、自身の経験を両市の相互理解に最大限生かすことができました。

フランスとの交流事業のほかにも、災害時の外国人支援や学校や市民団体への国際交流員（CIR）派遣などの業務にも携わっています。フランスでの生活の思い出はここに書ききれませんが、毎日さまざまな困難に向き合い、数えきれない挑戦をしながら外国人として異国で暮らした日々は、多文化共生推進業務をはじめとする幅広い業務につながっています。

葛藤から始まった私の派遣でしたが、3年間を振り返り、本当に「全部」が良い経験だったと心から思っています。



ナント市ダンスユニット「The Rookies」のメンバーと  
(右は、新潟市ホームページ：2025年青少年交流事業について)



### プロフィール・ほか

- クレア在籍時の所属  
2022年4月～2023年3月 総務部企画調査課  
2023年4月～2025年3月 パリ事務所